

学習者中心の授業デザイン ～デジタル学習基盤を前提に～

木田 博

鹿児島市教育委員会 教育DX担当部長 木田 博



文部科学省 学校DX戦略アドバイザー 企画調整委員(R5～6)

ICT活用教育アドバイザー(R2～) 企画調整委員(R3～4)

中央教育審議会「次期ICT環境整備方針の在り方ワーキンググループ」委員(R5～6)

「**学習eポータル**に関する専門家会議」委員 (R4・R5)

「**リーディングDXスクール**事業」推進委員 (R5～7)

「初等中等教育段階における**生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン**」有識者ヒアリング

「GIGA スクール構想の下での**校務 DX 化チェックリスト**」有識者ヒアリング (R5)

「**教育データの利活用**に関する有識者会議」委員(R6)

「**相互運用標準モデル**に関する専門家会議」委員(R6)

「**次世代校務DXガイドブック**」作成協力者(R6)

「初等中等教育における**教育データの利活用を支えるシステム間連携**の在り方に関する専門家会議」委員(R7)

総務省 「教育分野におけるPDSの活用に関する実証事業」協議会委員(R7)

鹿児島県 「教育の情報化」推進連絡協議会 委員(R5～)

「各学校・課程・学科の垣根を越える高等学校改革推進事業」運営指導委員長(R6～)

徳島県 「GIGAスクール構想推進本部教育DXタスクフォース」委員(R7)

滋賀県 「学校教育情報化連携推進会議」学識経験者委員(R7)



「教育DX(デジタルトランスフォーメーション)」のための3つの段階

デジタルイゼーション

Digitization

アナログ・紙をデジタル化により
効率・効果的に

デジタルイゼーション

Digitalization

デジタル技術・データ活用による
指導・教育行政の改善・最適化

デジタルトランスフォーメーション

Digital Transformation

学習モデルの構造等が質的に
変革し、新たな価値を創出

文部科学省教育DX推進室 桐生 崇 室長 「教育DXと教育データ利活用の現状と今後」 令和3年8月11日から引用

デジタルに置き換え

○アンケートを、紙の代わりに
オンラインで行う。
○授業の資料配布を、授業支援
システム等を利用してPDFや画像
にして配布する。

個別プロセスのデジタル化

○ホワイトボードを活用した協働
学習を、授業支援システムを活用
して、考えの共有・比較・協議・評
価等の一連の学習モデルの流れ
をデジタル化する。

新たな価値に基づくプロセス

○児童生徒自身がICTを活用して
個々の課題、状況、特性に応じて、
自ら目標を設定し、学習方法等を
自ら選択、自己評価できる学習
モデルの創造

学習者中心の学びの実現へ

新たな価値に基づくプロセス

○児童生徒自身がICTを活用して個々の課題、状況、特性に応じて、自ら目標を設定し、学習方法等を自ら選択、自己評価できる学習モデルの創造

学習者のニーズ、習熟度、興味等に焦点を当て、子ども自身で自分の学習プロセスをより効果的に管理できるようにする。従来の教師中心のアプローチから学習者中心のアプローチへ転換し、**個々の学習者の特性や進度に応じた柔軟なカリキュラム**を重視

○学習者の個別のニーズの理解:

各学習者が異なるスタイルや進度で学ぶことを理解し、それに基づいたカリキュラムの調整

○主体的な学習の促進:

学習者が自ら学ぶ意欲を高めながら、自己調整力を向上

○対話と協働:

学習者同士や教師との間での対話や協力を重視し、協働的な学びを推進

○デジタルやテクノロジーの活用:

デジタルを利用して個々の学習スタイルに合った教材やリソースにアクセス



「個に応じた学び」と「学習者中心の学び」

概 念	位置づけ	キーワード	説 明
学習者中心の学び (Learner-Centered)	理念・土台	主体性 (エージェンシー)	学習者が自ら目標を立て、学びをコントロールし、振り返るプロセス。先生が教えるのではなく、学習者が学ぶことが中心。
個に応じた学び (Personalized Learning)	手段・方法	最適化	一人ひとりの興味・関心、習熟度、学習スタイルに合わせて、内容や方法、ペースを調整すること。

学習指導要領および関連答申における「個に応じた指導」の主な系譜①

時代・文書	主 な 内 容
学習指導要領 (昭和33年改訂)	個人差・個性に配慮しつつ、基礎的な内容の学習を進めることが強調され、「個に応じた指導」という言葉はまだ用いられないが、 その前提となる考え方が示される。
教育課程審議協議会答申 (昭和62年)	各学校段階を通じた「個別に応じた指導の方法体制や工夫」や中学校では 習熟の程度に応じた個別指導・グループ別指導・柔軟な学習集団編成の必要性 が示される。
学習指導要領 (平成元年改訂)	基礎的・基本的な内容の徹底と「個性を生かす教育」の観点から、小学校総則に「 個に応じた指導 」などの 指導方法・体制の工夫改善が初めて示される。
中央教育審議会 第一次答申 (平成8年)	「生きる力」を育む上で一人一人の個性を活かした教育の重要性を指摘し、 TT・グループ学習・個別学習などの指導方法 の一層の改善を通して「個に応じた指導」の充実を図っている。
学習指導要領 (平成10年改訂)	<p>小学校において、個に応じた指導の充実の例示として、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導を掲げた。また、中学校においては、これらに加え、学習内容の習熟の程度に応じた指導を明記するとともに、従前は小学校のみに盛り込まれていた「教師の協力的な指導」を記述した。</p> <p>また、中学校の選択教科の内容については、生徒の能力・適性、興味・関心等に応じ、一層多様な学習活動ができるよう、課題学習、補充的な学習や発展的な学習を例示した。基礎・基本の確実な定着と個性を活かす教育の充実のため、「個に応じた指導の工夫改善を一層進める」ことが示される。</p>

学習指導要領および関連答申における「個に応じた指導」の主な系譜②

時代・文書	主 な 内 容
学習指導要領改訂 (平成29年告示)	児童生徒や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、 <u>児童の興味・関心等に応じた</u> 課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることや、教師間の協力による指導体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善により、 <u>個に応じた指導の充実を図る</u> こととされている。
中央教育審議会答申 (令和3年)	これからの学校教育においては、 <u>子供が ICT も活用しながら自ら学習を調整しながら学んでいくことの必要性ができるよう</u> 、「個に応じた指導」を充実することの必要性を示すとともに、「個に応じた指導」の在り方として、「指導の個別化」「学習の個性化」が示された。
中央教育審議会 「論点整理」 (令和7年)	<u>デジタル学習基盤と「個に応じた指導」に関する現状と課題が示され、「個に応じた指導」を、「個別最適な学び」に発展的に置き換える</u> 形で整理することを提言。

「個に応じた指導」から「個別最適な学び」へ

「個に応じた学び」と「学習者中心の学び」

「個に応じた学び」と「学習者中心の学び」の関係性：車と運転のたとえ

従来の学び（一斉指導）：
列車



全員同じレール、同じ時刻表
で進む。受動的。

個に応じた学び：
自分の車（先生ナビ）



自分のペースだが、先生が行き
先・ルートを決定。主体性なし。
「学習者中心」ではない。

学習者中心の学び：
自分で運転（主体性あり）



どこへ行くか、どう行くかを
自分で決定しハンドルを握る。
真の学習者中心。

↑
主体性
↓
(選択と決定)

まとめ：「個に応じた環境（車）」＋「学習者の主体性」＝「真の学習者中心の学び」

学習者中心の授業デザイン

Phase 1(第1段階) 「自己決定」の場をつくる

まずは、授業の枠組みは教師が決めたまま、その中の**小さな要素**を子どもに選ばせる。
「自分で決めていいんだ」という感覚（自己効力感）を育て、積み上げていく。

具体例

○学習の順番を選ぶ：

教師：「今日は計算ドリルと漢字練習、音読をやります。
どれから始めてもいいですよ。終わったら提出してください。」

○学ぶ場所・相手を選ぶ：

教師：「この課題は、一人でやってもいいし、友達と相談してもいいです。
自分が集中しやすい場所を選んでください。」

○アウトプットの方法を選ぶ：

教師：「まとめの方法は、紙に手書きでも、プレゼンツール、動画でもOKです。
自分が一番伝えやすい方法を選んでください。」

教師の役割：「環境設定者」 選択肢を用意し、「自分で選ぶこと」を許可し、安全に見守るとともに、子どもの状況を見取りながら、状況に応じて支援する。

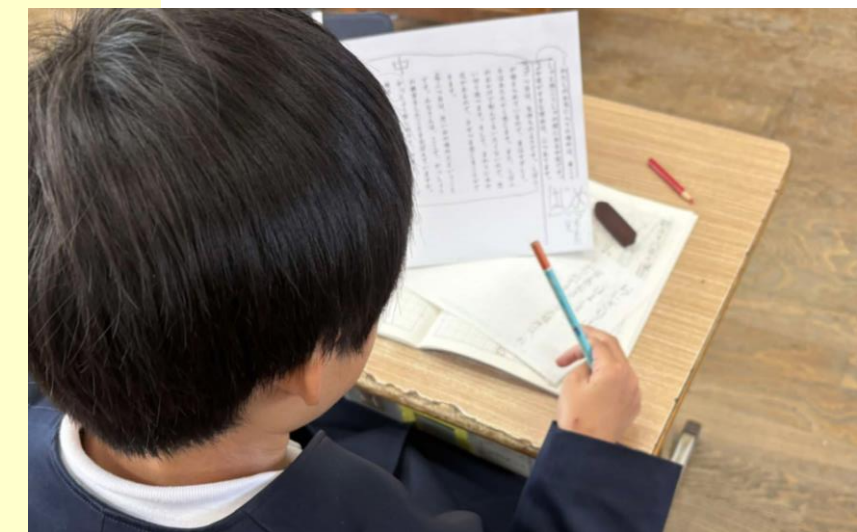
学習者中心の授業デザイン

Phase 1(第1段階) 「自己決定」の場をつくる

これまでは、**1つの方法、1つの順序**での学び

「お話のさくしゃになろう」 2年生国語 指導計画（例）

- 1 学習課題の設定
- 2 構想
- 3 お手本から
書き方の工夫を見付ける
- 4 書き出しの指導
- 5～7 記述（推敲）**
- 8 製本**
- 9 共有**



教師の指示に沿った学び

- ① ノートやワークシートに書き進める。
- ② 推敲する。
- ③ ①②を繰り返す。
- ④ 清書の紙にお話を書く。
- ⑤ 挿絵を描く。

順番に進める



学習者中心の授業デザイン

Phase 1 (第1段階) 「自己決定」の場をつくる

多様な方略（テキスト、描画、画像等）を組み合わせた課題解決の学び

「お話のさくしゃになろう」2年生国語 指導計画（例）

- 1 学習課題の設定
- 2 構想
- 3 お手本から
書き方の工夫を見付ける
- 4 書き出しの指導
- 5～7 **記述・作成（常時、推敲）**
- 8 **製本（デジタルブック）**
- 9 **共有（オンライン上）**

○撮影した画像をアプリで加工（挿絵）

○挿絵を描く
（描画アプリ等）

○お話（テキスト）
の作成

方法・ツール・順序
は子どもが選択

プレゼンテーションアプリで、お話のスライド作成

学習者中心の授業デザイン

Phase 2(第2段階) プロセス(学び方)を委ねる【自由進度学習】

いわゆる「自由進度学習」の段階。ゴール（単元の目標）は教師が示すが、そこに至るルートは学習者に任せる。

【算数・数学の例】

○ゴール提示:

教師：「この単元では『円の面積』を求められるようになることが目標です。
共有のWebページにループリックを示しています。」

○リソース提供:

教科書、解説動画、AIドリル、プリント、具体物（模型）を用意。

○委ねる:

教師：「自分に合った方法で勉強を進めてください。
早く終わった人は発展問題や自由探究に進んでOKです。」

教師の役割：「ファシリテーター（促進者）」 一斉授業は、必要最小限に止め、個別に困っている子をサポートしたり、良い学び方をしている子どもを全体に広めたりする。

学習者中心の授業デザイン

Phase 2(第2段階) プロセス(学び方)を委ねる【自由進度学習】

単元内自由進度学習計画表を用いて、計画を立てる。(9時間)

- ①平方根の積と商の決まりを理解する。
- ②根号を含む数を、目的に応じて変形する。
- ③根号を含む式の乗法や除法の計算をする。
- ④小数点の位置に着目して、平方根の近似値を求める。
- ⑤根号を含む式の加法や減法を計算する。
- ⑥乗法公式を用いて根号を含む式の計算をする。
- ⑦平方根を利用して、B5判の紙の縦横比等を調べる。

生徒が選択

- 内容 (個に応じた進度)
- 形態 (個別、友達と、教師と)
- 方法 (動画、聞く、教科書)
- 時間 等



それぞれの計画に従って、それぞれが学びを進める。



学習者中心の授業デザイン

Phase 2(第2段階) プロセス(学び方)を委ねる【自由進度学習】



デジタル庁ニュース「誰もが自分らしく学べる社会へ 教育DX」

<https://www.youtube.com/watch?v=dzsVuuR0ufw>

学習者中心の授業デザイン

Phase 2(第2段階) プロセス(学び方)を委ねる【自由進度学習】

多様な学びの場の選択と保証



単元への動機付け
(導入)
一斉学習



自由進度の
学びの説明
一斉学習



個別学習
個別支援



グループでの
課題解決

学習者中心の授業デザイン

Phase 2(第2段階) プロセス(学び方)を委ねる【自由進度学習】

子ども自身による多様な学びの選択



デジタルドリル+動画で動画視聴



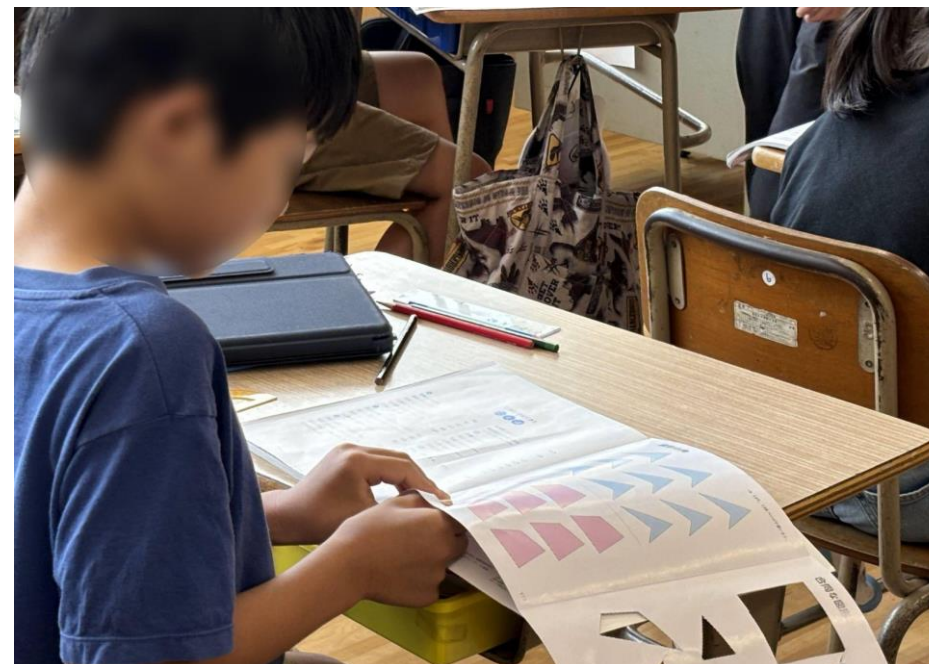
デジタルドリルに取り組む



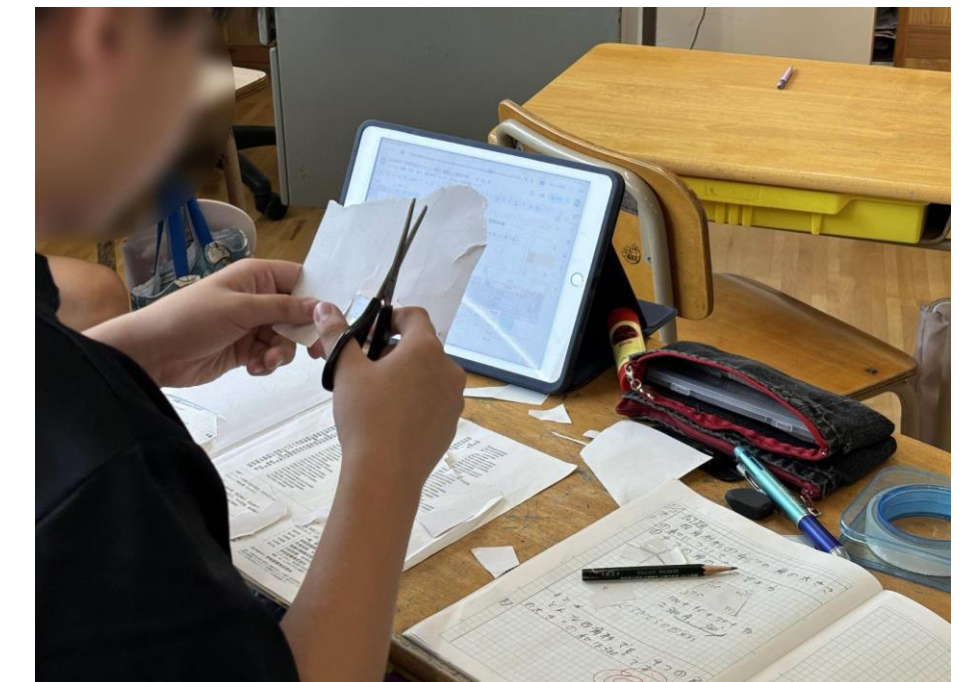
学習した内容をノートにまとめる



デジタル操作で具体物を体験



アナログ操作で具体物を
操作して学ぶ



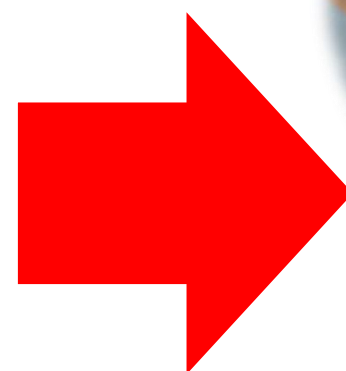
アナログ操作で学ぶ

自由進捗学習の成否のポイント①

子供たちが解決のために、多様な方略を選べる余地があるか？

方略は、教科書やワークのみ
ひとりでのみ解決

教科書、ワーク、動画、
デジタルドリル、Web検索等々
ひとりで、誰かと、先生と解決

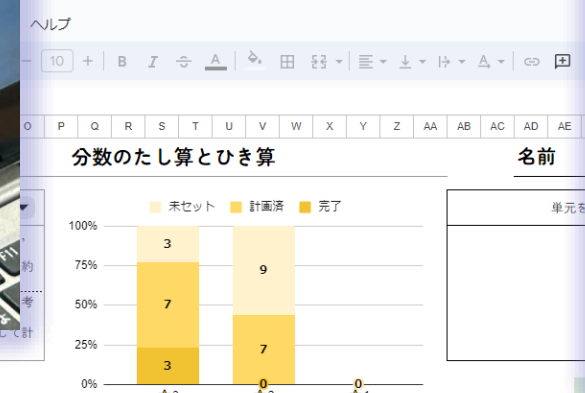
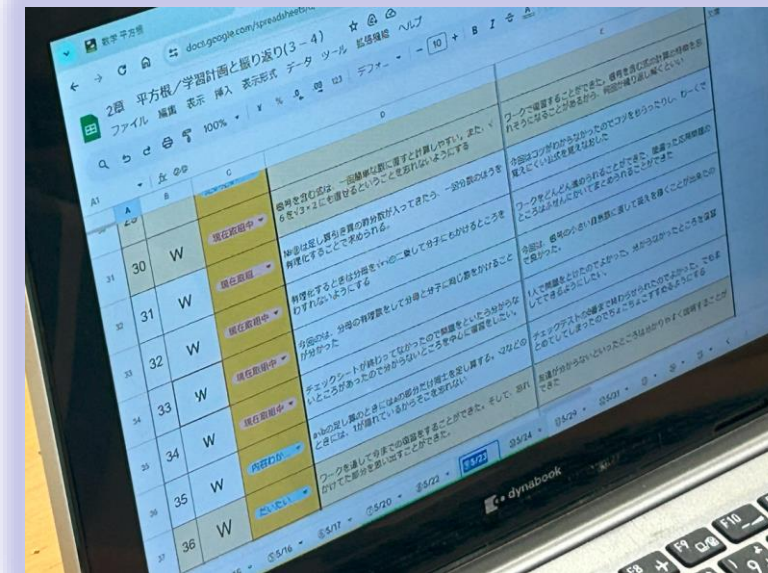
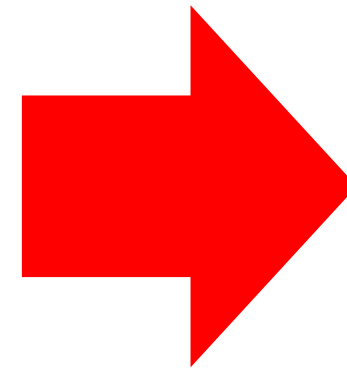
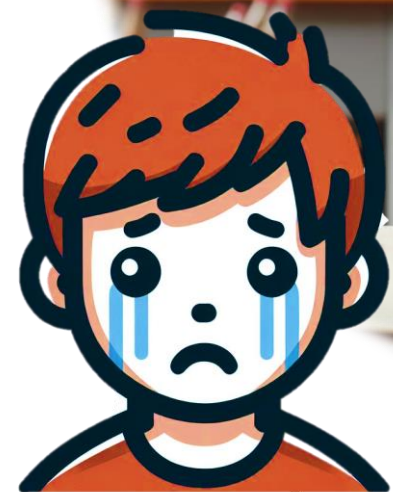


自由進捗学習の成否のポイント②

子供たちの取組の状況や学習進捗を把握できているか？

把握する方途が無く、
その子供まかせ

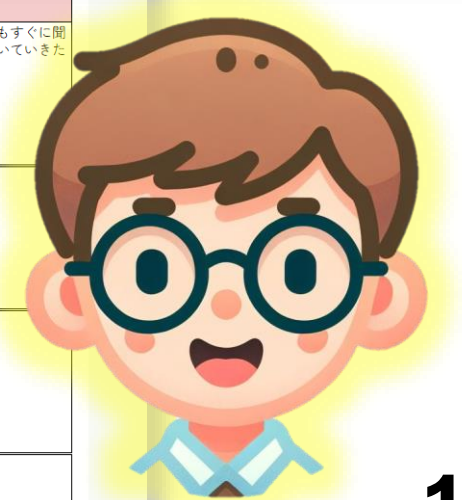
リアルタイムで、子供の状況を
共有・把握し、適時、支援



学習計画表			
学習カード	授業回	完了	
★1 教1. 分数の大きさの調べ方	1	✓	
★2 教2. 約分 (p7)	2	□	
★3 教3. 通分 (p8)	3	✓	
★4 教4. 通分のしかた (p9)	4	□	
★5 教5. 真分数のたし算 (p10-11)	5	✓	
★6 教6. 帯分数のたし算 (p11-12)	6	□	
★7 教7. 真分数のひき算 (p13-14)	7	□	
★8 教8. 帯分数のひき算 (p14-15)	8	□	
★9 教9. 3つの分数の計算真分数	9	□	
★10 教10. できるよになったこと	2	□	
★11 教11. まなびをいかそう (p16)	3	□	
★12 教12. ふりかえろう (p19)	4	□	
★13 教13. 等しい分数(2問)	1	□	
★14 教14. 約分①(3問)	2	□	
★15 教15. 約分②(3問)	3	□	
★16 教16. 通分①(2問)	3	□	
★17 教17. 通分②(6問)	4	□	

授業日付	学習前	経過	学習後	振り返り/次の見直し
1 9/26	見通し ばっちり	進んだ S	友達と一緒に勉強したので、わからなかったところもすぐに聞くことができてよかった。あしたはもっと問題を解いていきたいから、キュピナを頑張る！	
	スピード ふつう	まあまあ	分かった A	
	進め方 一人で		楽しかった B	
	明日も頑張ります！			
2	見通し	進んだ		
	スピード	分かった		
	進め方	楽しかった		
3	見通し	進んだ		
	スピード	分かった		
	進め方	楽しかった		
	見通し	進んだ		
	スピード	分かった		

出席番号	氏名	達成数	1. 小数と分	2. ...	3. できるようになったこと
1	ありむら なおき	7/7	1	1	1 3 1 2 2
2	ありむら れな	7/7	2	2	6 2 4 5 3
3	いむかわ あいる	7/7	2	2	2 4 2 2 2
4	えんどう はるき	0/7	-	-	- - - - -
5	おおい りあ	0/7	-	-	- - - - -
6	おちあい しずく	7/7	1	1	2 1 2 5 2
7	かつした はるき	7/7	3	2	2 6 3 2 6
8	かみぞの ななか	0/7	-	-	2 - - - -



学習者中心の授業デザイン

Phase 3(第3段階) 目標と評価を委ねる【自己調整】

学習者自身が「何を学ぶか」「どう評価するか」まで自分自身で決定する。総合的な学習の時間や探究学習等との親和性が高く、実践も多く見られる。

具体例

○目標設定:

子ども：「SDGsの中で、これまでの自分の経験や興味関心をもとに、自分が一番解決したい課題は何か？」を自分で決める。

○自己評価:

子ども：「自分のプロジェクトが成功したかどうか、課題を解決できたかどうか、どのような基準（ルーブリック）で判断するか」を自分で作る。

教師の役割：「**コーチ/メンター**」教師から答えを与えるのではなく、「君はどうしたい？」「その方法で目標は達成できそう？」と問いかけ（コーチング）、思考を深める手助けを行う。

学習者主体の学びの実現状況の評価の取組



教科から選ぶ		問題の種類から選ぶ	
問題の種類 ※必須	自治体等共同利用質問紙 1	形式 ※必須	<input checked="" type="radio"/> 複数問題形式 <input type="radio"/> 一問一答形式
学年		教科	
級			
タイトル	フリーワードで検索 例：令和3年度		
リセット		検 索	

問題一覧

全6件

問題を選択し『選択した問題を確認』ボタンを押してください(選択できる問題は1個までとなります)

	No.	タイトル	教科 学年	科目	問題情報	解説情報	詳細
<input type="checkbox"/>	1	ScTN質問紙 通常版(ライト) (※回答の集計が必要な場合や自治体単位で実施 する場合は、教育委員会等が問題搭載を限定公開で別途申請 すること)	総合 共通				詳細
<input type="checkbox"/>	2	ScTN質問紙 通常版(ベーシック) (※回答の集計が必要な場合や自治体単位で実施 する場合は、教育委員会等が問題搭載を限定公開で別途申請 すること)	総合 共通				詳細
<input type="checkbox"/>	3	ScTN質問紙 通常版(アドバンス) (※回答の集計が必要な場合や自治体単位で実施 する場合は、教育委員会等が問題搭載を限定公開で別途申請 すること)	総合 共通				詳細
<input type="checkbox"/>	4	ScTN質問紙 小学生版(ルビ版) (ライト) (※回答の集計が必要な場合や自治体単位で実施 する場合は、教育委員会等が問題搭載を限定公開で別途申請 すること)	総合 共通				詳細
<input type="checkbox"/>	5	ScTN質問紙 小学生版(ルビ版) (ベーシック) (※回答の集計が必要な場合や自治体単位で実施 する場合は、教育委員会等が問題搭載を限定公開で別途申請 すること)	総合 共通				詳細
<input type="checkbox"/>	6	ScTN質問紙 小学生版(ルビ版) (アドバンス) (※回答の集計が必要な場合や自治体単位で実施 する場合は、教育委員会等が問題搭載を限定公開で別途申請 すること)	総合 共通				詳細

学習者主体の学びの実現状況の評価の取組

学校教育の経験



5 件法で回答

いまのあなたの学 校 生 活では、以下の文のようなことが、どれくらいありますか。
「いつもそうだ」～「まったくない」の中で、もっとも当てはまるものを一つだけ選んでください。

質 問 1 授 業では、普 段の生 活のことや、社 会で問 題・話 題になっていることを材 料に学んでいる。

☐ いつもそうだ ☒ だいたいそうだ ☐ ときどきそうだ ☐ あまりない ☐ まったくない

質 問 2 授 業では、「授 業を進めるのは、先 生ではなくて、自分だ」と思いながら学んでいる。

☐ いつもそうだ ☐ だいたいそうだ ☒ ときどきそうだ ☐ あまりない ☐ まったくない

質 問 3 授 業では、自分の興 味や関 心に基づいて、自分なりに問いや課 題を立てて学んでいる。

☐ いつもそうだ ☐ だいたいそうだ ☒ ときどきそうだ ☐ あまりない ☐ まったくない

学習者主体の学びの実現状況の評価の取組

1 学期

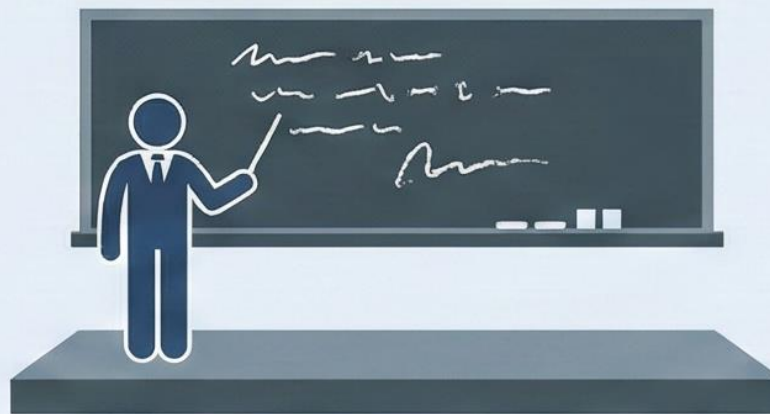


2 学期



教師の役割の変化まとめ『教える』から『支える』へのシフト

「教える」従来の「一斉指導」



先生の立ち位置: 黒板の前(ステージ・オン・ザ・ステージ)



主な仕事: 知識を分かりやすく説明する



子供への関わり: 全員を同じゴールへ引っ張る



時間の使い道: 講義・板書が中心

シフト

「支える」学習者中心の「個に応じた学び」



先生の立ち位置: 子供の横や後ろ(ガイド・オン・ザ・サイド)



主な仕事: 学ぶための環境を整え、問いかける



子供への関わり: 一人ひとりのつまずきや興味を見取る



時間の使い道: 個別支援・フィードバックが中心